

ベテラン技術者に聴く

## 昔を振り返って、、、(若い方々へ)

中国水工株式会社／専務取締役 吉田政司



### 1. はじめに

私が入社した当時から現在に至るまでの約40年の間、社会のニーズや価値観、生活スタイル、労働環境、テクノロジーなど、あらゆるものが大きく変わりました。その変化を直接経験してきた者として、読者の皆様、特に若い方々に何かお伝えできればと思います。

「ベテラン技術者に聴く」というテーマをいただき、どのような内容がふさわしいのか悩む部分もありますが、過去を振り返り、私の拙い経験の中から少しでも役立つものをお伝えできればと思います。

### 2. 当時を思うと

私は地方の企業で上下水道事業、特に下水道にかかわる業務に携わってまいりました。地方企業ゆえに、お客様のほとんどが地元の自治体でした。

当時、水道施設が整備されていない未給水地域が多く、下水道事業は普及率向上が急務とされていました。バブル経済期だったため、社会資本整備にも力が入り、業務量は右肩上がりでした。

残業は多かったです。入社したては自分で時間管理ができず、指示された通りに仕事をこなし、見よう見まねで取り組んでいました。生産性やライフワークバランスという言葉は聞かれない時代でしたし、私自身も「残業」に抵抗はありませんでした。当時は社会的に残業を美德とする風潮があったように思います。

一生懸命に働きました。とにかく楽しかったです。新しい発見や知識を得ることが嬉しかったです。図面を作成し、計算書をまとめ、報告書を仕上げるのが楽しかったです。やったことが形になるのが喜びでした。

しかし、振り返ると、当時はがむしゃらで目の前のことしか考えていなかったように思います。今の若い方々はキャリア形成を考え、それに従って人生設計を立て、頑張っておられます。それは素晴らしいことであり、今の時代に求められる姿勢なのでしょう。私ももっとしっかりと物事を考えるべきだったと感じます。

今ではパソコンは文房具と化し、仕事において必要不可欠なものとなっています。当時もMS-DOSのパソコン

はありましたが、私が扱うには敷居が高く、今ほど手軽ではありませんでした。図面はドラフターを使って描いていました。当時の上司が「図面はキャンバスだ!」と熱く語っていたことを今も覚えています。

ほとんどの計算は手計算で行っていました。そりゃ時間がかかります。例えば、管網水理計算は反復計算を行うので、時間短縮のために、管網数が少なくなるようにモデルを工夫しました。この作業は面倒でしたが、きちんと収束させることができた時の達成感は気持ちよいものでした。



写真-1 入社当時の仕事風景

当時は喫煙に寛容な時代でした。私も喫煙しており、同僚の多くも喫煙していました。今思えば、健康的な職場環境とはとても言えず、煙草を吸わない方々にはつらい思いをさせてしまったと思います。

喫煙をやめて約20年経ちますが、今では煙草の匂いや煙が大嫌いです。昔の自分を棚に上げ、煙草を吸う人に顔をしかめることもあります。しかし、現在は会社内が禁煙となり、そうしたことは無くなりました。

今はさまざまな「〇〇ハラスメント」が取りざたされています。コミュニケーションは、当時に比べると非常にデリケートになっています。相手が嫌がる言動を慎むことは、当時も変わりませんが、それ以外のあまり気にされなかった部分についても、今は多くの注意が払われています。

### 3. 時代の終わり

ほどなくしてバブルが終わり、経済の低成長とデフレ状態に陥りました。今に至っても完全には抜け出せていません。また、出生率の低下による少子高齢化は、労働人口の減少や社会保障制度への負担増を招き、深刻な社会問題となっています。社会インフラの持続可能性を考える上で、ヒト（労働力）、モノ（老朽化）、カネ（収益・予算）の問題に対し、資源をいかに有効に使うかが重要な課題となっています。

下水道においては、平成26年に「10年程度を目途に汚水処理を概成させる方針」が打ち出されました。これにより、多くの市町で計画が見直され、処理区域の縮小や整備手法の変更などが行われました。建設の時代に生きてきた私にとって、この時代が終わりを迎えることを考えると、大変感慨深いものがあります。

### 4. 若い方々へ

#### (1) 気づかないこと

例えば、道の拡幅により旧水路の護岸がそのまま埋められていることがあります。これに気付かずに計画線を引いてしまうと、工事の障害となる場合があります。このような埋められた構造物は、往々に路面の凹凸としてあらわれることがあります。現地をつぶさに見れば、その違和感に気づくこともできるでしょう。また、現在はインターネットを利用して昔の航空写真を閲覧できます。道路や河川、土地利用の状況変化を確認し、それをリスク予知に役立てることができます。工事の支障となるものは地下だけではなく、上空にもあります。3Dで気を配らなければいけません。

私も経験の浅いころ、架空線の直下に計画線を引いてしまい、ひどく叱られたことがあります。この時は、工事の着手前であったため、大きな手戻りとなる前に計画変更を行うことができました。

現地状況の把握を例に、気づきの大切さについて述べましたが、経験が浅いがゆえの判断ミスや詰めの甘さは、他の作業ステップにおいても生じる可能性があるため、注意が必要です。

#### (2) 取り組んでいただきたいこと

若手の方に取り組んでいただきたいことがあります。その一つは、作業ステップに応じて「チェックリスト」を作成することです。

経験のある方と経験の浅い方の違いは、気づきの程度にばらつきがあることだと思います。経験の浅い方は、どうしても見落としが生じやすく、それが原因で誤った方向に進み、手戻りになることがあります。チェックリストは、このばらつきを抑え、作業の精度が向上するた

め、品質の確保に役立ちます。

若手の方には、ばらつきを無くすこと意識して、自らチェックリストを作成し、活用していただきたいと思います。なお、チェックリストの作成にあたっては「ベテラン技術者に聴く」ことを忘れないでください。

### 5. おわりに

時代の変化は目まぐるしく、特にテクノロジーの進化には目を見張るものがあります。しかし、そのテクノロジーを活用する技術者が成長してこそ、現代の多様な課題を克服することができると思います。これからの時代を担う若い方々の大いなる成長に期待しています。

最後に、趣味のツーリングで出会った、技術者の思いがたっぷり込められた土木構造物を紹介して締めくくります。水コンサルとしては意匠に凝る機会はありませんが、同じ技術者として根っ子にある「良いものを作りたい」という熱意は同じだと思っています。

#### ●南河内橋（福岡県北九州市）

1926年竣工。重要文化財。大正の美感と先達の技術への強い思いが感じられます。



写真-2 南河内橋（2023年）

#### ●牛深ハイヤ大橋（熊本県天草市）

1997年竣工。曲線がたいへん美しい。ライトアップされた姿は絶品。現代ならではの洗練さと優雅さに見とれます。



写真-3 牛深ハイヤ大橋（2024年）